

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

日だまりハウス別館

日付 平成 21年 2月 25日

特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 介護支援専門員経験5年

評価調査員 在宅介護経験15年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「家へ帰る」又、Aさんが言い出した。「帰っても誰もおらんぞ。食べる事はどうする」Bさんがなだめる。「Aさんには関係ない。うるさい！頑固じいじい」「何とでも言いなさい。しかしどうする？」やりこめられそうになったAさんが、中国語で何やら言い返すと、Bさんは負けずにドイツ語で返す。Aさんは戦時中に中国で苦勞した。Bさんは帝国大学卒の博士だった。中国語とドイツ語で言い合う内に、相手に対する尊敬の念が勝り、互いに敬礼をし合い、ここで出会えて良かったの笑みを交わす。共に暮らす者同士、あるがままの日常が心地良い。ホームでは、出来る事は自分でする、しっかり食べてしっかり働く、言いたい事は遠慮なく言う。そんな当たり前の生活を大切にしている。みんなに住んでいる所だから出来る事は自分達でやろうの精神で、毎朝の掃除はホームの日課になっている。「何でせないけんの？あんたら若いんじゃからしんちゃい」「面倒な！さっきしたかな」言いたい放題言いながら、畳に掃除機をかけ、友達の部屋のフローリングも拭いてあげる。「帰ります」「だったら綺麗に掃除してからにして下さい」納得して掃除していたら、帰る事も忘れる。掃除出来なかった人も、いざって床を雑巾がけするうちに筋力がついて回復した。入浴時自分でするよう声を掛けると「着せてくれんのか？」「出来る、出来る」と言われ、暖房の効いた脱衣所で時間を掛けてするうちに「出来た」それが自身になって、今では他の人の世話もする。人の役に立てる喜びは大きい。じゃがいもの皮むきを頼むと「私そんなん出来ません」職員の「出来る、出来る」で、仕方なくやってみたら「出来た」出来るがどんどん増えていく。「何でこんなに動かにかいけんの？もう90過ぎたら寝るのが幸せ！前におった所では上げ膳据え膳で、何もせんでも皆してくれた」文句言いながらするうちに段々元気になっていく。「おやつ柿、食べたかったら自分で剥いて、たまには包丁と柿を出してみる。出来ない人には仲間が剥いてくれて、好物の柿を好きなだけ食べれる。自分達で剥いたら柿が一層美味しくなる。代表者や職員は利用者達の喜ぶ顔を見るのが何より嬉しい。外泊して自宅に帰ったら「家はこんなに人が少なかったかなあ」と物足りなく思う。今まで住んでいた家とは違うワイワイ賑やかな「日だまりハウス」での新しい家庭に、身も心もすっかり馴染んでしまっている。

特に改善の余地があると思われる点

ホームは生活リハビリを積極的に取り入れた支援を行い、大きな成果を挙げている。利用者・代表者・管理者・職員それぞれの微妙な調和によって成り立つグループホームは、流動的で常に変化する生き物のような感がある。

今後とも、これで良いと現状に満足する事なく自己研さんを積み、他には見られない特徴あるホームとして、ひとつの指標となる事を期待している。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：代表者の強い思いが職員間に深く浸透し、日々の支援に反映している。理念の実践が出来ているので、特に改善項目はない。</p> <p>全体的に見て…：職員は20～60代まで幅広く、男性職員も半数近い。「今日は若いお兄ちゃんばかりで夕食準備する事になるから、おかずを作っておいてあげよう」と年配の職員が気を利かす。介護の仕事は若い専門職の職員がリードするけれど、生活面では人生経験豊かな年配職員がフォローしてくれて、職員達のチームワークは実に良い。「職員が楽しくないと利用者も居心地悪い。楽しんで仕事出来たら、良いケアに繋がる」と代表者は語り、管理者は「すぐに忘れてしまっても、その時その時の利用者の良い顔が見たい」と言う。皆で楽しいと思える様に過ごす“日だまり流”が定着している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：特に改善項目はない。ハード面の生活空間も充実しており、ホームの内外共にゆったり落ち着いた環境だ。広い敷地を生かした空間は利用者の日常にメリハリを与えている。</p> <p>全体的に見て…：代表者の自宅は、2つのユニットの中間にあり、すぐ近くにはコンビニや同一母体法人の小規模多機能ホームが見える。田畑を含む周辺一帯が代表者の所有地だ。畑にはシーズン毎の季節野菜を植え、稲作までしている。利用者は存分に土いじりを楽しみ、その収穫物はホームの食材として活用している。天気が良ければ散歩に出て、庭木の柿や無花果を取って食べたり、気が向けばコンビニで買い物する。徘徊癖のある人は小規模多機能ホームで引き止められ、お茶を飲んで機嫌良く帰って来る。安心して安全な“日だまり村”が出来ている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：ホームはモニタリングをケアプランに反映する為に、その様子を更に検討しようと考えている。管理者は利用者の心情・症状や機能欠落部分の回復状態・パニック時等の記録を残すように伝え、全員で共有しながらより良い支援を提供したいと考えている。特に改善項目はないが、更に上を目指す取り組みが見られた。</p> <p>全体的に見て…：徘徊癖の激しかった人が、主治医と相談しながら薬を調整し、常に職員が付き合い、家族に話して、昔好きだった習字を始めたら、次第に落ち着いてきた。言葉の暴力があり、親子関係が上手くいっていなかった人が、ホームで暮らすうちに様々な人と交流して穏やかになり、関係修復出来た。山の水を引き入れたホームの風呂に入るうちにかゆみがなくなった。皆につられて好き嫌なく食べれるようになった。ホームに来て良かった事例は多い。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：ホームは家族の気持ちに配慮しながら、共に利用者を支えていきたいと考えている。ホームの在り方は、家族や地域から信頼され、共感を得ている。家族との協調や地域交流については全く問題ない。</p> <p>全体的に見て…：恒例となったホームの納涼祭は、利用者や家族だけでなく、職員の家族・近所の人・他のグループホームの利用者達等、友人・知人・地域の人が集う、総勢百人以上の大イベントになっている。地域には“日だまり後援会(すみれ会)”が出来て、イベントの時は何時でも、楽しんで見に来て、参加して手伝ってくれるそうだ。この地で暮らす代表者と後継者である子供達が運営する同一母体法人のグループホームや小規模多機能ホームは、地域に深く根付き、羨ましいような地域交流を実現している。「日だまりなら何とかしてくれる」地域の認知症ケアの拠点として信頼されている。</p>		